

令和4年度 すくすくウォッチ結果考察【概要版】

くすくすウォッチとは
 令和3年度から始まった大阪府独自の取り組み。今年度は4月22日(金)に実施。子どもたち一人ひとりが、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を活用させ、これからの予測困難な社会を生き抜く力を着実につけることを目的とする。その目的を達成するため、子ども、家庭、学校は、本テストを実施するとともに、テスト及びアンケートの結果や分析等から、以下の取り組みの充実に努める。

学校…教員が、子ども一人ひとりの学びに対する思いや強み弱みを知り、一人ひとりの実態に合わせた指導を行う。
 児童…自分の学びをふりかえり自らの強みや弱みなどを知って新たな目標をたて、強みをのばすことや課題を克服すること等に取り組む。
 家庭…こどもの伸びや課題を知り、子どもを励ます等によって、子どもを支援する。

すくすくウォッチから確認できた成果と課題

小学校5年生	河内長野市	対府差	府平均
国語	78.1	1.3	76.8
算数	43.5	1.5	42.0
理科	73.5	1.3	72.2
わくわく問題	62.4	2.4	60.0

小学校6年生	河内長野	対府差	府平均
わくわく問題	73.1	4.1	69.0

成果について
 ☆基礎的・基本的な学力の定着が見られた。
 ☆関連付けて考えたりまとめる問題についてはよくできていた。

課題について
 ★自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書くこと

課題解決に向けた今後の市としての取り組み

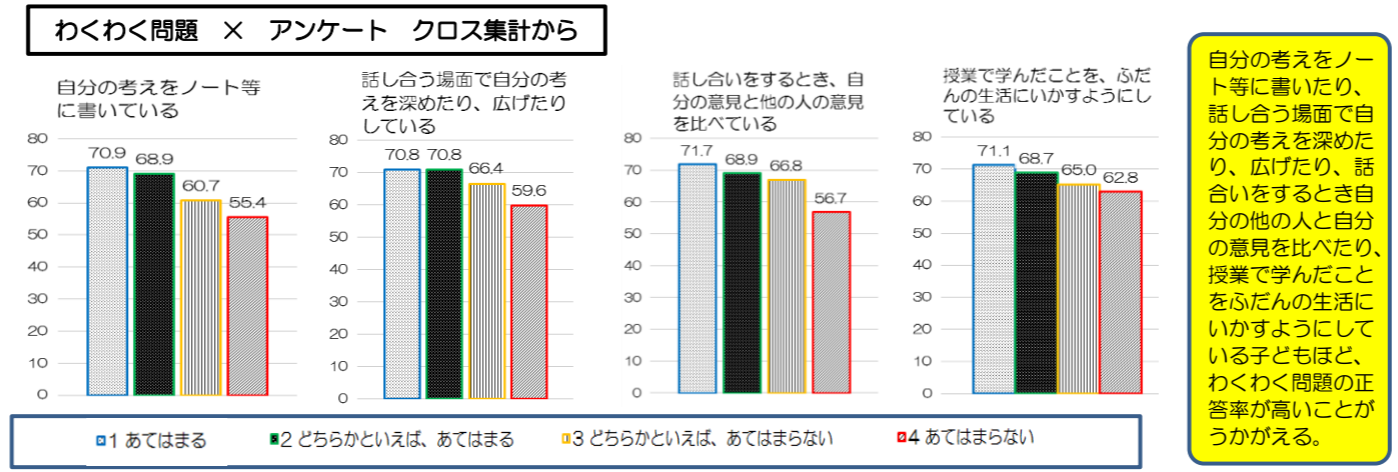
- ☆根拠や理由を明確にして、自分の考えをまとめ表現する
- ① すべての教科で文章を書く取り組みを実施
 - ② 条件に合わせて文章を表現する学習活動の設定
 - ③ 事柄が成り立つ理由を筋道立てて考える活動の設定
- ☆「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ① 児童生徒が主体となる授業の実践
 - ② 自分の意見を正確に伝える場面の設定
 - ③ 学習内容の確かな定着及び学びを継続させるための振り返り活動の設定
- ☆ICT機器を活用した学習活動の充実
- ① ロイロノートで他者の意見と比較する場面の設定
 - ② シンキングツール等を用いて考え方を整理
 - ③ オンラインでの遠隔教育・他校交流の実施
- ☆学校全体で組織的に取り組む授業改善
- ① 学力向上に関する研究授業の実施
 - ② 目の前の児童生徒の課題に正対した取り組み
 - ③ 教育活動全体で言語環境の整備

わくわく問題（教科横断的問題）について

くわくわく問題とは
 ○ 教科の枠を超えた日常の活動や現代的な諸課題（SDGs、プログラミング的思考）等をテーマにした問題
 ○ 文章や絵、図、表、グラフ、ホームページなどを読んで、自分の考えを書くなどの問題

くわくわく問題の観点
 ○ 子どもが、多様な他者と協働し、探求的な学習を進め、生きる力を伸ばすために必要な力として、以下の5つの観点に整理される。

A: 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる
 B: 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。
 C: 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。
 D: 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。
 E: 興味・関心のある事柄について、意欲的に工夫して相手に伝える。



わくわく問題（教科横断的問題）の状況 【強み】

図や表・グラフ・短い文章・会話文等の内容を関連付けて正しくとらえる問題について、下記の1（1）については府より正答が高かった。本問題については、普段の授業の中で複数の資料から目的に応じた内容を関連付ける学習への取り組みが進んでいると考えられる。わくわく問題の「内容を関連付ける力」に関するA～Dの観点別ごとの平均正答率を見ても、今年度は、すべての観点において府の平均正答率を上回っていた。

わくわく問題（教科横断的問題）の状況 【課題】

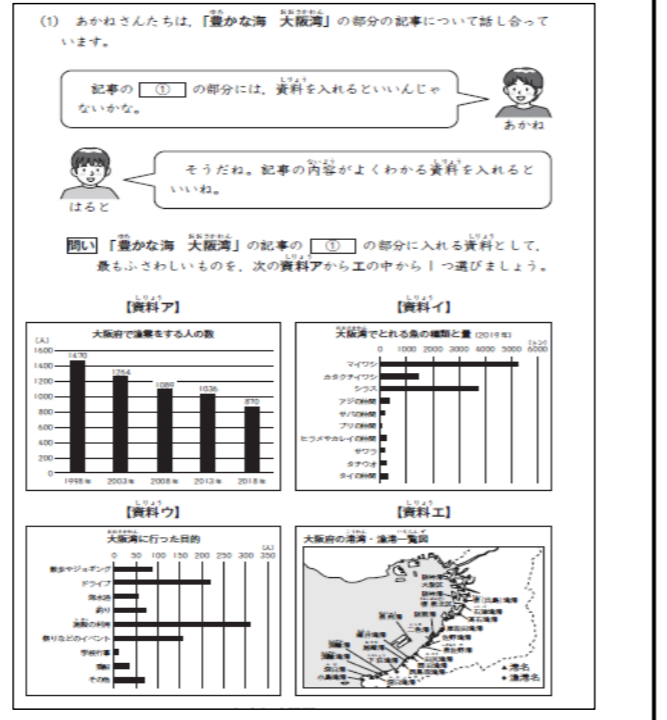
図や表・グラフ・短い文章・会話文等の内容を関連付けて正しくとらえる問題について、今回は3問出題されたが、左記の1（1）については府より正答率が高かったが、他の2問については府より正答率が低かった。特に正答率の低かった本問題については、記述式であることが1つの要因と考えられる。この課題解決に向けて、複数の資料を関連付けて考えたことを表現させる場面を、授業の中でもこれまで以上に設ける必要がある。

○問題の概要
 児童にとって身近な「大阪湾」を題材とし、基礎的な読み取りの力を問うとともに、読み取った内容に基づいて思考し、自分の意見を持つ態度を育てることを目的とした問題。また、SDGsの「目標14：海の豊かさを守ろう」と関連した情報を提示することで、身近な産業と環境との関わりが気付き、社会問題に対する意識の向上につなげてほしいというメッセージを込めている。

○観点
 A：図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。

○問題形式 選択式

正答率	市平均	対府差	府平均
5年生	80.0	1.5	78.5
6年生	93.4	5.6	87.8

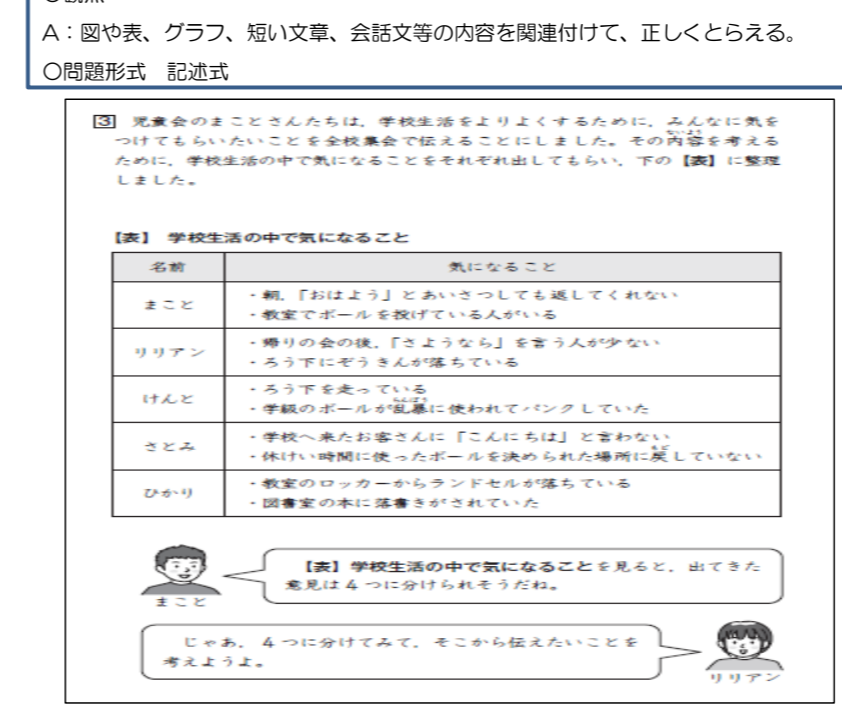


○問題の概要
 学校生活における課題の改善を題材とし、課題解決のための考えや手立てを相手にわかりやすく伝えることを目的とした問題。特に【伝えたいこと】に示された課題に、なぜ気を付けてもらいたいのかの理由を考えることができる構成とした。

○観点
 A：図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。

○問題形式 記述式

正答率	市平均	対府差	府平均
5年生	4.1	-1.1	5.2
6年生	5.0	-2.4	7.4



まことさんたちは、出された意見を4つに分け、そこから考えた【伝えたいこと】を次のようにまとめました。

【伝えたいこと】

- ① あいさつをしよう
- ② 片づけをしよう
- ③ みんなのものを大事に使おう
- ④

(1) 問1 【伝えたいこと】の④ の中に入るふさわしい言葉を考えて書きましょう。